

令和 7 年 2 月 7 日

東員町議会 広報広聴常任委員会委員長

広田 久男様

東員町議会 広報広聴常任委員会

山崎 まゆみ

研 修 報 告 書

研修期間	令和 7 年 1 月 27 日 (月) ~ 1 月 28 日 (火)
研修 (視察) 先	・和歌山県かつらぎ町議会 ・奈良県王寺町議会
目的 (テーマ等)	「議会広報広聴活動について」
参加議員名 (複数の場合)	東員町議会広報広聴常任委員会委員 6 名と 議会事務局 1 名
資料添付の有無	有 ・ ④無

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページにご記入ください。

《研修概要、内容》

1月27日「かつらぎ町議会の 広報広聴について」・・・

説明者＝ 議会だより特別委員会委員長 東芝弘明 氏

◎特徴（参考点、我が町との相違点）

①編集体制

- ・申し合わせにより、前任者の半数が委員会に残る。立候補で選出。
- ・議会事務局職員にも委員と同じ権限付与。

②コンクール受賞歴

- ・入選1回、奨励賞1回

③編集方針

- ・☆☆意見の違いをきちんと届ける編集
- ・深みのある紙面（立体的な紙面…グラフ、表→読んで理解しやすい

④視察研修の反映… “徹底的にパクリ”

⑤議会改革を紙面に反映させる…議会による政策提言、編集委員会による特集

⑥紙面に住民参加…住民のコメントを載せる（その人の大字名も載せる）

⑦製作費減と紙面のブラッシュアップ ←編集の効率化。レイアウトは印刷業者

◎掲載内容の特徴・・・ 住民こそが主役という目線で、住民視点の編集に努力

『議会まめ知識』

- ・できるだけ専門用語を使わない

『がんばる人紹介』

- ・年4回のうち、3回は子どもを取り上げ、1回は大人を取り上げる

『委員会内体制』

- ・「編集班」と「取材班」に分かれる
- ・2人1組のチーム編成

『住民コメント』

- ・あの質問どうなった追跡記事などにも、住民の「ひとことコメント」を載せる

1月28日「王子町議会の 広報広聴について」・・・

説明者＝王子町広報アドバイザー 村田大地 氏（議会事務局職員）



企画プロモーション、自治体広報 LAB 運営

◎コンクール受賞歴

- ・全国町村議長会主催全国コンクール入選

◎自分に必要な情報なのかを判断する時間＝0.3秒

◎視認性（見やすさ）・可読性（読みやすさ）・判読性（理解しやすい）

⇒ユニバーサルデザイン

◎紙面の要素を洗い出す

- 人を前面に出す紙面展開
- コンセプトは重要。

「議会だより」＝「あなたと議会をつなぐガイドブック」

★すべての審議結果を、均等に掲載しない

★関心が高い案件に、優先順位・メリハリを

●キャッチーな表紙

●近所の人載ってる親近感

●議会用語・行政用語は言い換えや解説を

●はみだし記事の部分（欄外）に住民の意見を載せたり、住民紹介をする

⇒議会だよりのリニューアルで、約90%の住民が愛読に繋がった（アンケート結果）

【紙面づくりについて本日のポイント】

○コンセプト・ターゲットを決めること

⇒ターゲットは20～40代女性

○ユニバーサルデザイン思考にすること

⇒中学生でもわかる内容。解説をつける

○専門家のアドバイスを求めること

○議員は企画と取材をすること

《所 感》

今回の視察で、和歌山県かつらぎ町議会広報紙、奈良県王寺町議会広報紙のコンセプトや議会広報紙の改革、斬新なリニューアルの成功例をじっくりと学ぶことができ、納得できることばかりの内容で、非常に有意義な視察研修でした。

両町議会広報紙に共通した改良点は①「住民の意見やコメントが紙面に、実に効果的に載っていること」②「すべての審議結果を同じトーンで載せるのではなく、優先順位をつけてメリハリ付けて載せていること」でした。「住民の立場に沿った発信をすることの重要性」をまざまざと思い知らされた二日間の研修でした。

自分は、今まで長く議会広報紙の編集の委員会に携わらせていただけてきましたが、就任当初の基本的に今までの紙面づくりを踏襲することから現委員長のリーダーシップのもと、少しずつ紙面改革を行ってきて県内他議会だより編集委員の方からの高い評価もいただいています。しかし、まだまだ議員目線での発信に留まり、住民が親しみをもって読んでもらえる議会だよりからは程遠いものであったことを、非常に深く反省させられました。思い切った紙面リニューアルを決行するには、まずは編集委員以外の議員からの同意が得にくいだろうし、読み手の住民も斬新な紙面への切り替えには、共感を得られにくいだろう、と勝手に思い込んでいた自分が恥ずかしくなりました。

リニューアルに成功した事例を見、紙面改革のコンセプトをお聞かせいただいて、自分の思い込みは打ち砕かれました。「自信をもって紙面を変えていかないといけない」と強く実感しました。王子町議会編集には、議会事務局にカリスマ的な広報アドバイザーがいらっしやって、その方ご自身の持つノウハウ、力量によるものが大きくて議会だより改革の大成功となったといえると思いますが、唯一無二のカリスマ的な人材がなくても、我々ができるところから着手していくこと、小さな一歩の積み重ねで、議会だより広報が住民の皆さんに読んでいただき、親しまれて、なくてはならないものに変えていけると思います。

議会だより広報の使命は「住民にとって大切な情報や方針、まちづくりの未来を考え

ている議会と行政双方の意見のやりとりを伝える事」である以上、その議会だよりをきちんと隅々まで読んでもらえる住民が増えていく事、特に若い世代の方が必ず、全戸配布された議会だよりを手に取り熟読してもらえるようにすることで、「議会への関心が高まること」と、「まちづくりを考える人を増やし」、「主体的に地域のことに取り組む必要性を感じる人を増やす」ことを理解した次第です。

人口減少と低成長の時代を迎えて、持続可能な地域作りのため、議会と行政で取り組んでいる様子を住民に伝えることと、住民がまちづくりを自分事として捉えて関心を持つこと、意見を言う事は必要不可欠なことです。住民の関心が得られないという課題を解決するための「最も有効なツールが議会だより広報であると理解した以上、議会改革とか、まちづくりの関心を持ってもらえる住民を増やすために、議会だより広報の発揮する力がとてつもなく大きい」と強く実感しました。今回の視察に行ったメンバーの熱い思いの冷めないうちに、議会広報紙リニューアルのコンセプトを意見交換して、東員町議会だよりに反映させたいと思います。かつらぎ町議会広報特別委員会さんの言葉にもあった「視察後は良いところを徹底的にパクリ」をしていかないといけないと思います。

住民代表の議会議員が忌憚なく議論し、住民に納得していただける結論に導く任務をしっかりと務められるように、議会だより広報広聴委員会の使命を、引き続き全力を尽くしていこうと思います。